

「できーくん」は、でかしてくれる！

今号もいよいよ注目を浴びている「できーくん」の話題です。

愛知県海部郡甚目寺町の家田昭彦さんの農園に設置した事例報告です。家田さんは、弊社顧客の中でも草分け的存在で、昭和48年(1973年)から水耕栽培に取り組まれており、30年のキャリアを持つみづば一筋の大ベテラン農家です。もともと農家でしたが、当時この地域では、赤たで、つまみ菜・・・などなど各種野菜を、リレー栽培する作型、朝3時から作業で市場へ出荷など作業形態も複雑、つらい仕事でした。そんな親の仕事ぶりを見ていて、親父の仕事から離れたかったし、年間同じ作目、定例的な作業化をねらって水耕に取り組み始めたとのこと。当時はECコントローラーもなく、単肥を手計算で、管理も簡易測定器でのバッチ管理の時代でした。それは苦勞

しましたわと笑いながら創世期の時代を話してくれました。以来30年、最初の10年は、農家とはこんなものの時代、次の10年は、儲かった、いよいよきたなの時代、この10年は、いつ閉めようかを考えている時代とわかりやすい解説をしてくれました。この「できーくん」との出会いは、初期のべと病、最近のピシウムなど病気との闘いに苦勞されていたわけですが、今年初め村井社長に話したら、毎日養液更新をと奨められたが、「とてもそんなことは人では出来ない」と言ったら「よっしゃ、そしたら機械を作る」といって4月に持ってきてくれたことに始まる。いわば「できーくん」は、ここから始まったわけです。設置して思うのは、今日は大丈夫だろうかと心配をいつもしていたが、気にしなくてよくなった。作柄もすごく良くなったけれど、この気にかげなくてもよく

なったことが、すごく大きいと納得顔でした。

また、今まで謎だった栽培管理のいくつかの点が、「できーくん」を導入したことによって、あーそういうことだったのかと納得できるようになったこと。これも大きい。現在のECは従来の4.5から2.5にでき、これで今まで以上の色と出来映え、病気管理は、最適肥料管理が一番と再認識したとのこと。また、肥料消費が、増加するのではの懸念は、無駄な液更新がなくなる、低濃度で栽培できるなどのことからかえって減ったとのこと。「できーくん」はでかしてくれるとの言葉をいただきました。

これは我々にとって最高の褒め言葉と言えます、感謝です。家田さんのますますのご発展を祈っています。

(企画室 小倉東一)

